

### 2018年度 圧入工法普及活動を展開しています！

(一社)全国圧入協会(JPA)は、圧入工法の普及拡大を通じて社会に貢献すべく、建設技術者を対象とした「技術講習会」「現場見学会」を全国で開催しています。2018年度の普及活動についてトピックを紹介します。

#### 全国各地で「圧入工法技術講習会」を開催

今年度は4月より全19回の「CPD認定 圧入工法技術講習会」を計画、開催しています。講習プログラムは、国際圧入学会(IPA)が発刊した「圧入工法設計・施工指針」、「環境性・安全性・急速性・経済性・文化性」に優れた工法の選定手法についての解説、躯体部と基礎部が一体となり1本1本が求められる強度を満たす許容構造部材を圧入工法で地中に押し込み、地球と一体化した構造物を構築する「インプラント構造」の優位性と事例(堤防・防潮堤、道路擁壁、橋梁)解説を中心としています。このほか、圧入工法による災害復旧・防災技術の事例や積算について解説するなど、3時間半のスケジュールです。

#### 全国の開催で受講者数はすでに600名超に

圧入工法技術講習会はすでに16回開催され、設計コンサルタントや建設会社の技術者等636名が受講しています。(8月20日現在)

【開催と受講者数】○函館(68名)○釧路(69名)○網走(79名)○東京(22名)○広島(34名)○松江(12名)○札幌(44名)○盛岡(32名)○仙台(35名)○東京(24名)○名古屋(41名)○大阪(52名)○福岡(44名)○鹿児島(31名)○新潟(28名)○高松(21名) 受講者のアンケートによると、各プログラムそれぞれに関心を寄せており、大半の方が圧入工法は自社の業務に活用できると回答しています。(右上の円グラフを参照)

#### 札幌市・塩釜市で「圧入工法技術講習会・現場見学会」を開催

協会は全国で技術講習会を展開する一方、圧入工法の特徴のある現場において「技術講習会・現場見学会」を随時開催しています。

今年度の第1弾は、札幌市・豊平川取水堰新設工事におけるジャイロプレス工法・硬質地盤クリア工法の現場見学会(4月5日開催)。この現場見学会では136名の方が2つの工法を同時に見学することができました。7月19日から20日には、塩釜港西ふ頭観光さん橋外災害復旧工事におけるジャイロプレス工法・スキップロック工法の現場見学会を開催。スキップロック工法は、スキップロックアタッチメントを組み合わせることで、鋼管杭を杭径の2.5倍程度の一定間隔を保持しながら圧入する工法です。当日は、合計99名の受講者が座学講習後、講習会場の屋上や現場で見学しました。

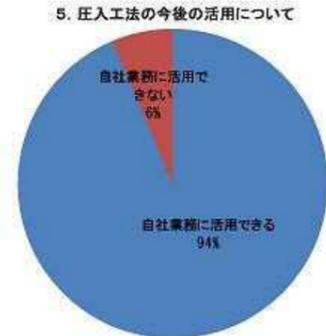
#### 札幌市に「北海道事務所」を開設・工法普及活動をスタート

6月20日には北海道地域における圧入工法の普及や技術支援を行う拠点として札幌市に「北海道事務所」を開設。JPAは昨年より今春にかけて札幌市など北海道7都市で技術講習会や現場見学会を重点的に開催しています。これを契機に、北海道事務所は同地域のインフラ整備や防災に貢献すべく、圧入工法の普及活動に邁進していきます。

#### ▼圧入工法技術講習会(7月18日、福岡会場)



#### ▼圧入工法の今後の活用(アンケートによる)



#### ▼現場見学会(7月19日～20日、塩釜会場)



#### ▼北海道は矢野・板坂(技術委員)の2人体制



圧入工法のさらなる発展を目的に実施しているJPA表彰。第3回となる今年度は、応募総数が前年度比24件増の61件に上りました。そして表彰委員会による審査の結果、28件が各賞に受賞となりました。

6月6日の会員総会では感謝状の贈呈とともに表彰式が行われました。受賞された会員企業・個人の皆さんは右表のとおりです。

#### 現場部門賞とメンテナンス部門賞 今号よりJPAだよりでご紹介！

JPAだよりでは、今号からシリーズで現場部門賞とメンテナンス部門賞の受賞概要について紹介します。なお、写真部門賞受賞作品は、協会Webサイトのトップページをご覧ください。

受賞者・受賞企業(敬称略)	
感謝状(3名)	オペレーター部門賞(6社6名)
稲森 勝次氏(稲森クレーン建設 株式会社)	腹岡 剛氏(株式会社 技研施工)
久保田 修一氏(株式会社 角藤)	池田 三男氏(株式会社 崎山組)
竹原 脩雄氏(有限会社 タケハラ工業)	小竹 俊之氏(土保産業 株式会社)
現場部門賞(6件)	山元 博文氏(株式会社 藤井組)
渡辺アーステック 株式会社	西田 宏二氏(株式会社 出雲技研)
杉崎基礎 株式会社	写真部門賞(11件)
株式会社 角藤	渡辺アーステック 株式会社
株式会社 技研施工	杉崎基礎 株式会社
株式会社 藤井組	株式会社 梶川建設
株式会社 佐藤重機建設	株式会社 角藤 ※3件受賞
メンテナンス部門賞(4社)	株式会社 佐藤重機建設 ※2件受賞
株式会社 秋田県南重機	株式会社 技研施工
吉田重機建設 株式会社	共栄産業 株式会社
土保産業 株式会社	土保産業 株式会社
株式会社 出雲技研	動画部門賞(1件)
オペレーター部門賞(6社6名)	株式会社 技研施工
八木 茂夫氏(株式会社 藤本重機)	

#### 【現場部門賞】 渡辺アーステック 株式会社 「南浦和・浦和間外盛土耐震補強その他工事」

この工事は、JR東北本線のさいたま新都心駅と大宮駅間にある大宮操車場駅構内における、硬質地盤クリア工法による盛土軌道部の耐震補強工事です。課題は、①営業線に近接しているため軌道変位の予防と安全施工の両立、②工期短縮、③駅構内道路の通行の確保等です。

そこで、軌道変位の予防については、硬質地盤クリア工法に設計変更。芯抜き理論の利点を最大限に活かしつつ、日々の埋戻しを確実に行うことでクリアし、安全対策としては、まず防護柵とレーザーバリアを設置。次に、自動停止リミッターによりクレーンの旋回とブーム角度を制限。加えて、クレーンに取り付けたカメラにて吊荷の状況を監視。このような作業で施工を完遂することができました。工期短縮に関しては、駅出入口の作業ヤードに硬質地盤圧入機と複数のクレーンで施工する方法を提案。このほか作業ヤードの使い方について工夫した結果、駅構内の道路通行を確保し、かつ大幅な工期短縮に成功しました。

⇒2面に続きます

## Infomation

### 会員企業と「ブロック会議」を開催中！

会員との情報共有ならびに会員相互の意見交流の場として、「ブロック会議」を各地区で開催中です。会議ではJPAの主な活動、積算歩掛の改定活動、圧入業界・建設業界情報に基づく意見交換等を行っています。これまで東海、東北、近畿、九州・沖縄、関東・北海道、四国の各地区で開催。北信越(9月6日)、中国(10月4日)と全8地区で地域に密着した意見交流を図ります。



協会Webサイト [www.atsunyu.gr.jp](http://www.atsunyu.gr.jp)

#### 【新会員のご紹介】

- |     |                 |         |
|-----|-----------------|---------|
| 正会員 | ・大創建設工業(株)様     | 兵庫県神戸市  |
|     | ・ユタカ重機工業(株)様    | 東京都江戸川区 |
|     | ・(株)鳥取技研様       | 鳥取県鳥取市  |
|     | ・(株)高崎コーポレーション様 | 鳥取県境港市  |
|     | ・(株)元岡組様        | 福岡県糟屋郡  |
|     | ・新睦工業(株)様       | 神奈川県横浜市 |
|     | ・(株)井原重機様       | 奈良県天理市  |
|     | ・(有)喜藤組様        | 沖縄県浦添市  |
- (2018年1月～8月入会、入会順・会員別)

#### 【会員数の状況】(2018年8月20日現在)

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ・正会員 192社   | ・協賛会員 24社 |
| ・賛助会員 3社4団体 | ・特別会員 6名  |

# 栄えある JPA 第 3 回表彰

～ 今号からシリーズで「現場部門賞」「メンテナンス部門賞」をご紹介します！ ～

## 【現場部門賞】 株式会社 藤井組「奈良線桃山・六地藏間路盤新設他工事」

この工事は、JR 奈良線の複線化に伴うノンステージ工法による擁壁工事です。課題は最大 N 値 40 の地盤でしたが鉄道近接の法面で、かつ約 1.5m の高止まり施工が求められる中、同工法の単独圧入で品質良く施工することでした。そこで、鋼矢板の閉塞予防や、土砂が線路に飛散しないよう法尻部に単管による簡易土留めで養生する等の創意工夫で完成させました。現場の作業チームは、JR が営業しながらの作業で非常に気を使いました。また、単独圧入のため鋼矢板の鉛直性の維持等に苦労しましたが、完成後は達成感で喜びもひとしおでした。



## 【メンテナンス部門賞】 土保産業 株式会社

同社は、お客さんの工程に遅れない、作業者のケガを防ぎ、近隣や第三者の方に迷惑をかけないという経営方針にもとづきメンテナンス体制の整備を進めています。ベース基地（右写真）には圧入機や道具類の保管、整備工場、配車管理等を集約することで、管理・整備状況の一元管理ができます。ソフト面においては、オペレーター・整備・溶接の各社員と連携を強化し、入出庫時にはチェックリストによる点検・不具合がないか等を協力して実施し、工場では整備状況の見える化を日常的に行うなど、保守・メンテナンスの向上を図っています。



## 【メンテナンス部門賞】 吉田重機建設 株式会社

同社は、施主に対し絶対に迷惑をかけず、お客さんに喜んでもらうという経営方針にもとづき圧入機や道具類を大切にしています。その具現化として、自社内に 15t の橋型クレーンとトラバーサ 2 台を設置し、圧入機器の入出庫・動作点検・日常点検をすぐに、かつ整理整頓等を効率的に行っています。オペレーターには担当する圧入機を決め、日常点検など責任を持って実施しています。現場完了時にはオペレーターと工場部門が一体となって不具合等がないかを検証し、社員にはメンテナンス方法の研修を行うなど、きめ細かい指導を図っています。



## Infomation

### 吉田重機建設(株)が、木曽川上流河川事務所より表彰されました

7月24日、2016（平成28）年度の第1回JPA表彰（現場部門賞）を受賞した、同社の「平成27年度 犀川遊水地新堀川樋管改築工事」が、国土交通省中部地方整備局 木曽川上流河川事務所より表彰を受けました。

同工事における品質向上への貢献に対し、会社および専任技術者を務めた橋本雅博氏が表彰されました。この表彰は、JPA 表彰に続いての受賞で大変誇らしく、また、元請企業と共に喜びを共有することができました。



▲木曽川上流河川事務所からの表彰状



▲表彰状を受け取る橋本雅博氏